

授業科目の概要

国際社会学科

入門

BK001 国際社会論

グローバル化する世界の諸問題を考察することを通じ、国際社会学科で学ぶ基礎作りを行う。一方でさまざまな知を駆使して学際的に学ぶことの重要性、他方でメジャーを持ち、学問分野別に学ぶことの重要性を確認しながら、国際社会研究のための基本的視点を概観する。(チェーン・レクチャー方式)

1. イントロダクション: 具体例をあげるなどして主題提示をし、グローバルとローカルという視点、開発・協力という視点、公共政策という視点、日本社会という視点、社会比較という視点という柱を立てて、国際社会の問題を考察することの意味について講述し、導入とする。
2. グローバルとローカルという視点1(アジア): アジアの現代的諸問題を素材にしながら、グローバル化の中での地域研究の実際について概観する。
3. グローバルとローカルという視点2(欧米): 欧米(含ラテンアメリカ)の現代的諸問題を素材にしながら、グローバル化の中での地域研究の実際について概観する。
4. 開発・協力という視点: 国際開発、国際協力の実際を概観しながら、先進諸国と途上国の関係のあり方について考察する。
5. 公共政策という視点: 多様な主体による社会問題への政策的対応の理論と実践について概観する。
6. 日本社会という視点: グローバルな視点から日本社会の社会問題について考える。
7. 社会比較という視点: グローバル化する現代社会の諸問題を比較考察する。
8. 国際社会研究の 이슈: コメントペーパーや中間提出物などを利用しつつ、国際社会研究の 이슈となる論点を提示し、さらに受講者の質問も踏まえ、全体の整理を行い、国際社会研究のモチベーションづくりを行う。

基盤演習

BK301 国際社会基礎演習

国際社会論の授業内容を前提にしながら、グローバル化する現代の社会問題、およびそれを考察する視点の基礎作りを行う。三専攻の学生と教員が少人数の混成クラスにわかれ、ゼミ形式で授業を行う。一方で、社会学、経済学、国際関係論、文化人類学、現代史など学問分野別の知を用いることの重要性、他方で、分野別の知を学際的に駆使することの重要性を、報告や討論などを通じて確認し合い、国際社会学科で学ぶことの意味はなにか考えてゆく。

卒業論文

BK901 卒業論文

卒業論文は、学際的に視野を広げ、また学問分野の体系的な知を身につけた勉強の総決算である。国際社会学科において3年次までに学んだ講義、演習、社会調査実習などに基づいて、4年次当初に各々の研究主題を決める。4年次の演習とも連携しながら、個別の研究指導をくり返し、学生が自主的に研究計画を立て、それぞれの主題に見合った文献研究、調査研究を実施する。随時研究成果をまとめて中間的な報告を行い、その上で論文を執筆してゆく。卒業論文提出後は、副査1名を交えて口述試験を行う。

国際関係専攻

入門

BA001 文化人類学入門Ⅰ

社会と文化の相対性を理念として掲げ、個々の社会の文化的伝統や歴史的文脈を視野に収めながら、総合的に人間研究を行ってきた文化人類学という学問に関する入門的な講義である。文化人類学の発展の歴史や、その研究手法であるフィールドワーク、比較文化的総合的な研究視点などを俯瞰し、それぞれの民族集団が環境に適応して創造された採集狩猟、牧畜、農業などの文化および産業文明を学習し、文化人類学や心理人類学の研究課題である文化について学ぶ。

BA002 文化人類学入門Ⅱ

「文化人類学入門」に引き続き、環境への適応戦略としての経済システム、親族や年齢集団、地域共同体、政治組織などの社会的協力のシステム、宗教・神話・儀礼などの信仰と価値のシステム、民俗医療と医療人類学、文化とジェンダーなどについて学ぶ。文化や社会の多様性と多元性、その構成の仕組み、時代とともに変容する生成性、文化の人間に対する影響などを理解し、そして、文化的他者への理解を介して自己理解を深めることを目的とする。

BA003 比較文化論Ⅰ

この講義では、比較文化論の意義・課題・方法について検討することを目的とする。文化とは何か、文化を比較するとはどのようなことなのかについての理解を深めていきたい。また、＜異文化＞としての日本（他者としての日本）についても考察する。テーマを大きく分けると「比較文化論とは何か」、「文化とは何か」、「＜異文化＞とは何か」、「＜異文化＞としての日本・日本人・日本文化」、「比較文化論の領域と手法」など基本的な問題を深く考えてみる機会としたい。

BA004 比較文化論Ⅱ

「比較文化論Ⅰ」に続き、比較文化的な観点から「記憶と忘却」の問題について考察する。基本的な問題を概観したうえで、主として日本と英・独・米・中・韓の戦争と植民地支配の記憶をめぐる、さまざまな重要側面について検討したい。記憶とは何か、忘却とは何かなどから、「戦争の記憶の比較文化」を取上げ、「西欧と日本の苦い記憶」では「忘れられた軍隊」、「極東捕虜問題」など、また「哀悼の比較文化」では「靖国問題」、「哀悼の比較文化論」、「記憶の越境性と非越境性」などを扱う。

BA005 国際関係史Ⅰ

現代の国際関係を理解するために、20世紀からの国際関係史の知識を得ることを目標とする。急速に一体化していく現代世界は、国内政治の動きだけではなく、貿易や外交交渉を通じた国家間関係、国境を越えた国際的組織の動向に大きく影響される。このダイナミズムを把握させることとしたい。この授業では、

20世紀初めの2つの世界大戦と、この両大戦間の歴史的考察を行い、戦争と平和の問題について論じる。

BA006 国際関係史Ⅱ

現代の国際関係を理解するために、20世紀からの国際関係史の知識を得ることを目標とする。急速に一体化していく現代世界は、国内政治の動きだけではなく、貿易や外交交渉を通じた国家間関係、国境を越えた国際的組織の動向に大きく影響される。このダイナミズムを把握させることとしたい。この授業では、第2次大戦後の冷戦体制の構築、核戦略体制、冷戦体制の崩壊、冷戦後の民族紛争などを扱い、国際的な安定・秩序の問題を論じる。

BA007 国際関係論Ⅰ

第一次世界大戦後に誕生した国際関係論とはどのような学問であるのかを学ぶことが目標である。近代主権国家の誕生と外交と戦争の役割から始めて、勢力均衡政策が失敗し「世界大戦」に陥った世界が再び世界大戦を経験し、東西ブロック間の「冷戦」を戦ったかを講義する。国際関係の理解に不可欠な基本的な概念と理論の基礎を学んでから、リアリズムの立場に立って冷戦に焦点を当てて講義する。具体的な事例としては、「東欧」の成立過程とソ連型社会の特徴を検討し、キューバ・ミサイル危機では核戦略と危機管理を学び、ソ連のアフガニスタン侵略事件における外交と経済制裁の有効性を分析する。

BA008 国際関係論Ⅱ

冷戦終結後に一層複雑化している現代の国際関係を、冷静な視点で見つめ、分析出来る力をつけることが目標である。冷戦後の世界では従来のように主権国家だけが国際政治の主役ではないことを、EU、国連、NGOなどが重層的に活動している状況から理解させる。最初に冷戦構造の崩壊過程をソ連、ハンガリー、東独の事例を取り上げて講義し、現在の欧州における問題との関連を考察する。次いで核拡散、大量破壊兵器の規制レジーム、対人地雷規制条約で活躍したNGO、湾岸戦争、コソボ紛争、難民問題などの様々な争点を取り上げて概観し、その動向を分析して出来れば解決策を考える。

基盤講義

BA101 日本文化論

内外の研究者が自然・風土、衣・食・住、政治・社会、思想・文芸、言語、宗教、芸術などを題材にしてさまざまな角度から日本文化の特質を論じた研究の成果を批判的に整理・紹介して初学者に基礎知識を持たせるとともに、現代の日本人が「日本文化」と考えているものが近代日本においていかに構築されてきたかを多様な史料を用いて検討し、日本、日本人、日本文化およびそれらについての言説をより深く反省的にとらえる姿勢を学ばせる。

BA102 中国文化論

中国研究の基礎として、必要な基礎知識の習得をはかりつつ、あわせて日本文化との比較の視点もおりませながら、中国理解への第一歩とする。現代中国の理解に必要な歴史的背景について、近年の古

代史の成果にもふれながら比較的長い時間の幅で、また文献資料のほか映像資料なども使用しながら概観することにより、「中国文化特論」や「中国近現代史」、「中国近現代史」、「現代中国論」、「中国研究」、「中国研究」などを、より深く理解できるような基礎をつくる。

BA103 朝鮮文化論

朝鮮半島の政治、社会制度、文化などに対し、総合的かつ多面的な理解を深めることを目標とする。専門知識として活用できるよう具体的な問題を取り上げる。朝鮮半島の戦後政治と朝鮮半島統一問題、韓国の文化産業の発展と特徴、韓国の教育問題、韓国の軍隊と徴兵制度、北朝鮮の実相、北朝鮮による拉致被害者と日本人妻問題、韓国の反日問題と日本の大衆文化の影響、日韓相互イメージの変化と韓流、今後の日韓・日朝関係のありかたなどを扱う予定である。

BA104 東南アジア文化論

東南アジアの諸社会を特徴づける自然風土、言語、民族、社会構造、宗教、政治、日常生活などについて、初学者に基礎的な知識と理解を持たせる。この授業では、とりわけ、東南アジアの伝統的社会の文化的多様性・多元性と統一性、ポストコロニアル国家による「国民の文化」「国民の歴史」の創出の手法、開発と人権、国家と部族、中間層の出現などのトピックからいくつかの事例を取り上げて、東南アジア理解の土台を学ばせる。

BA105 アメリカ文化論

アメリカ社会における基督教の役割について歴史的な理解を与えることを目標とする。基督教は、現代のアメリカ文化の背景を成す要因の中でも、最も根本的なものの一つである。ピューリタニズムの系譜を中心に、契約思想、政教分離、リヴァイヴアルの力学、独立革命と宗教の関係、啓蒙主義と基督教、基督教の女性化、福音主義の主流化、リベラリズムとファンダメンタリズムの対立等、17世紀から現代にいたるまでの基本的なイシューについて解説する。

BA106 日本史概論

本講では、原始・古代から現代までの日本の歴史について概観する。日本列島における日本国家の形成や社会のあり方とその歴史的变化をみていくことにするが、その際のひとつの中心的テーマは、天皇および天皇制をめぐる諸問題ということになる。そこでは中央政治のみならず、地方政治のあり方、また朝廷のみならず、海の民・山の民をも含む一般の民衆の生活や思想、信仰などにも論が及ぶことになる。さらに国際関係、とりわけ東アジア世界との関係が、日本の歴史を考える上では不可欠であるので、その点についても中心的テーマとして講義を進める。

BA107 東洋史概論

東アジアを中心とするアジアの歴史を古代から現代まで概観することにより、この地域において生起する諸問題を歴史的視点から理解する習慣を身につけるようにする。重要と思われるトピックをいくつかとりあげて、その歴史的背景について整理、紹介する。あわせて近代日本における東洋史学の成立や東洋史

学上の重要な論争にかんする史学史を概観することにより、近代以降の日本が「東洋」を通じてどのような世界像を描こうとしてきたかを批判的に検討する。

BA108 西洋史概論

古代から現代までの西洋(米国を含む)の歴史を概説する。その際、古代・中世・近世・近代・現代といった時代区分の基準や「西洋」の地理的範囲が時代によってどのように変化してきたか、にも注目する。また、このような「西洋史」の時間的、空間的位置の変化と「西洋人」の自己意識の変化との関連にも注目するとともに、日本人にとっての「西洋史」研究の意義が明治期から現在までどう変化してきたかも検討してゆく。

BA109 法学概論

法律学の基礎を学ぶ。法とは何か、また社会と個人との関係を構築する法的な思考を養う。現代社会において法律の果たす役割を学び、法的な考え方を理解させる。個人の人権や権利が侵害されたときに、いかにして法律を利用してその擁護を図るかが課題である。日本国憲法と民法の基礎部分、さらに社会との関連で行政法などにふれた後で、国際法の基礎的な要素も考察する。

BA110 政治学概論

政治的な磁場においては、いかなる問題も政治化する。環境問題や年金問題も政治学の対象になる。時代が変わっても政治的なものの本質は変化しない。そのようなスタンダードな政治学を国際政治学まで含みながら講義する。政治思想、政治意識、政治指導者と大衆、官僚制、政党、マスメディアの政治的機能、政治体制論、更に、国際政治についても講義する。

応用講義

BA201 日本近現代史A

本講は、日本の近現代史を、思想史の問題として概観することを目標とする。時期的には、主として幕末・維新时期から明治時代を中心にするが、当然のことながら大正・昭和戦前期までの思想史にも言及する。鹿野政直『近代日本思想案内』(岩波文庫)などを一つの手がかりにしながら、ナショナリズムの動向に重点を置いて概説していくが、国民国家論にも留意しながら進めることにする。なお、できれば戦中・戦後期の思想動向をも視野に収めたいと思っている。

BA202 日本近現代史B

本講は、日本の近現代史における政治と天皇の関係を概観することを目標とする。江戸時代の終わりに天皇権威が次第に上昇したことから説き起こし、明治維新を経て、君主制の一類型として確立していく過程を明らかにする。ついで、たび重なる戦争を経て、それが全体主義国家の中心に据えられていく原因を理念・制度・人物の諸側面に即して論じていく。最後に、太平洋戦争の敗戦によって、今日に続く象徴天皇制が生み出されていく時期にまで言及する。

BA203 中国近現代史Ⅰ

現代中国を理解するために、近現代史の知識を得ることを目標とする。中国の国民国家形成過程を軸に、近代化の課題、近代化における国際的要因のインパクトについて検討を行う。この授業では、中華人民共和国建国前について講義する。不平等条約の形成過程、近代化の模索、中国共産党の設立と成長、孫文の広東政府と国民革命、中国共産党の中華ソビエトと国民党の南京国民政府、満州事変から日中戦争、国共内戦などについて論じる。

BA204 中国近現代史Ⅱ

現代中国を理解するために、近現代史の知識を得ることを目標とする。中国の国民国家形成過程を軸に、近代化の課題、近代化における国際的要因のインパクトについて検討を行う。この授業では、中華人民共和国建国後について講義する。建国直後の新民主主義、朝鮮戦争、反右派闘争から大躍進、調整政策、文化大革命、対外開放政策の開始、政治改革への模索と天安門事件、90年代以降の経済発展と政治社会状況などについて論じる。

BA205 朝鮮近現代史Ⅰ

朝鮮史の流れを概観した後、開港期から日韓併合までの過程を深く理解することを目標とする。授業でははじめに時代区分の問題を取り上げ、三国時代から朝鮮王朝時代までの政治・思想・社会・文化の時代的な特徴を扱う。その後、開港期から「日韓併合」までの過程を日本との関連で韓国の政治・経済・社会などの面を詳細にみていくことにしたい。中国、ロシア、アメリカなど日韓を巡る様々ななかかわりについてはそのつど触れる。

BA206 朝鮮近現代史Ⅱ

「日帝時代(1910～1945)」、解放と南北分断、4・19学生革命・朴政権期、民主化運動さらに現政権までの道のりを理解することを目標とする。個々の出来事や事件を詳しく取り上げ、民主化への課題もあわせて考察する。土地調査事業の実態、3・1運動の主体、背景、経過、意義などを理解し、その後の独立運動の流れを見て行く。そして1945年の解放と済州島の「4・3」、南北分断と朝鮮戦争、その後の各政権の課題と問題点を民主化への過程という視点から見ていく。

BA207 アメリカ史Ⅰ

植民地時代から19世紀末までのアメリカ合衆国の歴史を特定のテーマに即して概説する。具体的なテーマとしては、「戦争体験とその記憶」や「人種・民族関係の変遷」などアメリカ合衆国の社会に関わる基本的な問題を適宜選択して、他国との比較や相互関連に注目して講義する。また、適宜原史料を配付して、実証分析の方法にも言及するとともに、関連するビデオ教材を見せた上で感想文の提出を求め、講義内容の理解を深める。

BA208 アメリカ史Ⅱ

19世紀末から現在までのアメリカ合衆国の歴史を特定のテーマに即して概説する。具体的なテーマとしては、「戦争体験とその記憶」や「人種・民族関係の変遷」などアメリカ合衆国の社会に関わる基本的な問

題を適宜選択して、他国との比較や相互関連に注目して講義する。また、適宜原史料を配付して、実証分析の方法にも言及するとともに、関連するビデオ教材を上映した上で感想文の提出を求め、講義内容の理解を深める。

BA209 現代中国論

現代中国の諸問題を理解させることを目標とする。対外開放政策下の中国は、外国との接触や急速な経済発展によって、社会や思想に大きな変化が見られる。チベット、モンゴル、ウイグルの諸民族に代表される少数民族問題、環境問題、貧富の差の拡大、官僚・政治家による腐敗・汚職、社会の変化に伴う人々の意識の変化、ナショナリズムの台頭など、様々な問題から多面的に中国を見ることによって、現代中国に対する理解を深める。

BA210 現代韓国論

戦後韓国政治の基本アクターを理解することを目的とし、家父長的支配から軍出身者政権を経て、民主化に至る過程を憲法改正史と比較政治論の視点から見たい。朝鮮解放前後史、朝鮮戦争と李承晩政権、朴正熙軍事革命とその後の「維新体制」の成立、朴正熙暗殺と「肅軍クーデター」、全斗煥と議院内閣制改憲論、「6・29民主化宣言」と盧泰愚政権、「3党合同」と金泳三政権、金大中政権の誕生、盧武鉉政権の属性などが考察の対象となる。

BA211 現代アメリカ社会論

現代アメリカ社会に関する基礎的な知識を習得することを目標とする。人種とエスニシティ、貧困問題、教育問題、犯罪問題などの個別の争点について、歴史的な変容過程も踏まえつつ解説を行う。それと同時に、それらの問題をコミュニティの統合の観点から再構成し、多文化主義とアングロコンフォーミティの間でゆれるアメリカ社会の特色を理解することをめざす。その際、できるだけ多くの視点を反映させ、アメリカ社会の多様性が浮き彫りになるよう留意する。

BA212 日本文化特論(近現代文学)I

日本の近代史において近隣諸地域を植民地支配した事実を背景として、日本人によって書かれた文学作品がある。それらを日本近現代文学史の中に位置づけることを目標とする。

日露戦争後、中国東北部に対する日本人の関心が高まり、そこを訪れる日本人は多数にのぼった。文学者は印象記を残し、訪問時の見聞を素材に小説を書き、さらにはその地に住みついて詩や小説を書く者もいた。それらの作品には、各詩人・作家の中国(人)観が投影されている。それを読み取り、それぞれの中国(人)観の特質や、日本人作家にとって中国東北部が持つ意味などを考察する。

BA213 日本文化特論(近現代文学)II

日本近代文学は国内で書かれたものだけではない。植民地支配を背景に、いわゆる外地において書かれた作品もある。それらが日本近代文学史にどのような位置を占めるかを考察することを目標とする。

かつて暮らした中国東北部の記憶を語る文学作品がある。それは、過去に自分が抱いていた中国(人)観をどうとらえかえすかという問題をはらんでいる。「日本文化特論(近現代文学)」をふまえて、文学作品にあらわれた中国東北部に関する記憶のあり方、および、在住経験をもつ作家の現在を考える。

BA214 社会言語学特論A

社会生活の中での言語の諸相とそのとらえ方について、主に日本語の具体事例を取り上げながら学ばせる。日本語の地理的変異に着目し、貴重な言語資料である全国に広がる様々な語の分布から、ことばの生成・発展・衰滅のプロセスをたどっていく。小方言から中核方言への統合現象や衰退する伝統方言に代わる新しい方言の発生・浸透などの実態もふまえ、共通語との接触による方言の変容、それに伴う方言の運用や意識の問題についても考えていく。

BA215 社会言語学特論B

社会生活の中での言語の諸相とそのとらえ方について、主に日本語の具体事例を取り上げながら学ばせる。日本語の変種を年齢差、性差、場面差などの多角的な視点からとらえ、表現形式や談話構造のバラエティを探っていく。ことばの規範、アイデンティティとことばとの関係を言語意識の側面からとらえ、コードスイッチング、コミュニケーションストラテジー、敬語選択などの言語運用に具現されていく状況を、背後で作用している様々な社会文化的要因を視野に入れながら考えていく。

BA216 中国文化特論

「中国文化論」での理解をもとにして、中国文化の諸側面についてより深い理解を獲得させる。今日の中国の文化状況を理解するうえで重要と思われるトピックをとりあげて、そのトピックについて完結した議論を展開する。そのトピックをとりあげる意義を確認したうえで、関連する研究動向を批判的に整理、紹介しつつ、新たな知見をまじえて論ずる。その際、資料の検索や解釈などを実際に示すことにより、学生が自身の関心に即して研究する際のモデルとなるようにする。

BA217 南アジア文化特論

南アジアの諸社会を特徴づける自然風土、人間集団、言語、社会構造、政治、宗教、芸術、日常生活などについて、初学者に基礎的な知識と理解を持たせる。この授業では、とりわけ、南アジアの歴史と文化を特徴づける多様性と統一の問題、その根柢にある宗教的意識の歴史的展開、近現代における宗教(ヒンドゥー教、イスラム教など)とナショナリズムの関係などのトピックからいくつかの事例を取り上げて、南アジア理解の土台を学ばせる。

BA218 イスラム文化特論

西アジアに始まって多様な異文化との接触の中でアフリカ、中央アジア、南アジア、東南アジア、欧米などに広く展開したイスラム世界について、初学者に基礎的な知識と理解を持たせる。この授業では、特にイスラム世界の地域的な多様性、非イスラム世界や資本主義との関わりなどに注意を払いながら、ムスリムの日常生活、宗派、思想・世界観、規範、祝祭、家族と婚姻、芸術、テロリズム、戦争などのトピックから事例を取り上げて講述する。

BA219 アメリカ文化特論A

時事問題を通じて現代のアメリカ合衆国についての理解を深めることを目標とする。クリントン、ブッシュ、オバマなど、著名人による演説(英文)をテキストとして現代アメリカの諸問題を解説する。副教材として英字新聞を用い、時事問題について議論する。アメリカを研究するために必要な、高度な言語能力を獲得することも目指し、毎回その目的のための訓練もおこなう。

BA220 アメリカ文化特論B

アメリカの主要な女性運動家の思想を時系列にそって学ぶ。キャサリン・ビーチャー、ハリエット・ビーチャー・ストウ、エリザベス・ケイディ・スタントン、ジェイン・アダムス、シャーロット・ギルマン、エマ・ゴールドマン、マーガレット・サンガー、ベティ・フリーダン、アリス・ウォーカー等の著作を読み、その主張の要点を学ぶとともに、彼女たちの思想および活動が歴史をどのように動かしてきたのかを考える。

BA221 近現代日本研究(社会・思想)A

近代日本における国家・社会・個人をめぐる諸相とはどのようなものであり、それらは現代日本にいかにかに受け継がれているのか否かを問う。そうした基本的視座から、社会思想や政治思想、また民衆思想や宗教・民間信仰など、さまざまな側面から日本近代を考察することを目標とする。考察の対象とする基本的な歴史的事象としては、江戸時代後期の尊皇攘夷論、明治期の啓蒙思想、自由民権の思想、日本主義をはじめとするナショナリズムの思想、明治社会主義などを取り扱うことにする。

BA222 近現代日本研究(社会・思想)B

近現代日本の政治思想や社会思想、宗教や民衆思想などを取りあげて、近現代日本における国家・社会・個人のかかわりあいに関する理解を深めることを目標とする。近代日本における国家・社会・個人をめぐる諸相とはどのようなものであり、それらは現代日本にいかにかに受け継がれているのか否かを問う。そうした視座を基本に据えることで、近代的国家もしくは近代的権力とは何かを根本から問い直す。近代日本における主権論の展開と民主化のあり方、日本人の天皇像、民俗学の展開、大正デモクラシー思想、国体論の諸相、昭和期の超国家主義、そしてアジア主義などに対する理解を深めることとする。

BA223 近現代日本研究(日本語文化論)I

現代日本語の状況の実態を把握するための言語調査の方法を学ばせる。日本各地方言の現状を調査するために方言をデータとして収集、分析、解釈する場合のフィールド調査の方法論を概観する。調査対象地点の先行研究の紹介、調査準備としての必須事項、臨地言語調査の企画・立案、調査票の作成(調査項目の設定、質問方法の検討、質問文のワーディング)、調査の実際における対処事項など面接調査の基盤となる知識と技法を習得させる。併せて、調査結果の整理、報告書のまとめ方にも触れる。

BA224 近現代日本研究(日本語文化論)II

現代日本語の状況の実態を把握するための言語調査の方法を学ばせる。現代日本語の変異に着目し、言語使用の実態をデータとして収集、分析、解釈する場合の調査方法を概観する。特に、アンケートを中

心とした数量的な言語調査の企画・立案、調査票の作成(調査項目の設定、質問方法の検討、質問文のワーディング)、調査の実際における対処事項など調査の基盤となる知識と技法を習得させる。言語行動や言語変化に関わる要因など言語に広く関わる事象の調査方法も検討する。

BA225 中国研究Ⅰ

地域研究として中国研究をする際の、中国を見る眼について注意を喚起することによって、中国研究の方法を習得することをめざす。前近代以来の歴史的背景をふまえて東アジア世界のなかに中国を位置づけつつ、近現代の日本が中国をどのように見てきたかについて、具体的な資料や研究成果を提示する。これを学生自身に閲読、考察させることによって、改革開放政策やグローバル化のなかで大きな構造変動に直面している中国および東アジアに対する眼を養う。

BA226 中国研究Ⅱ

「中国研究Ⅰ」で鍛えた「中国を見る眼」をふまえて、学生が自らの中国像を獲得することをめざす。中国の多様な側面を、歴史や思想、政治、経済、社会、文化などについて、資料や研究成果をまじえつつ具体的に紹介しながら、それらを踏まえてどのような総合的な中国理解が可能かを提示する。紹介された具体的事例を理解することで中国の諸側面についての個別的理解を深めると同時に、個別の事例がどのように総合されるかに実際に触れるなかで、自分なりの総合的理解への導きとする。

BA227 朝鮮研究Ⅰ

「ウリ(私たち)」という語の概念を理解し、韓国人の意識構造に迫ることを目標とする。まず、「ウリ」という語の多用な使われ方を日常会話、新聞、雑誌などのほか歴史的文献、広告における実際の用例を調べ、それらを分類し、それぞれの用例を分析していく中でどのような意識がそこに表れているのかを考察する。そこで現れた様々な意識が互いにどのようにかかわりあっているのかを考えながら、「ウリ」をめぐる意識構造を考察する。

BA228 朝鮮研究Ⅱ

「恨(ハン)」という語の概念を理解し、韓国人の意識構造に迫ることを目標とする。朝鮮文化の基底をなすといわれる「恨」に焦点を当てた論文は多く、また「恨論争」も多様であるが、授業では文学者、言語学者、社会学者、心理学者による「恨」に関する論考を読んだのち、歴史・社会・性・階層・地域・経済・教育などとの関連から多角的に「恨」をとらえ、その構造を明らかにしていく。「恨」のメカニズムを理解した後、「ウリ」と「恨」の関係について考察する。

BA229 アメリカ研究(社会史)Ⅰ

植民地時代から19世紀中葉までのアメリカの歴史を、女性たちを主人公として概説する。アメリカ史で通常採りあげられる主要な出来事の中で、女性たちはどのような役割を果たしていたのか、また、歴史的变化は、女性たちの人生にどのような影響を与えたのかを考える。ジェンダーの視点から歴史をとらえることで、日常的、私的関係性の中にも権力関係が存在することに気づかせるとともに、日常の細部に歴史を見いだす目を養いたい。

BA230 アメリカ研究(社会史)Ⅱ

1890年代から現代までのアメリカの歴史を、女性たちを主人公として概説する。アメリカ研究Ⅰに続く講義で、産業化、移民の流入、グローバリゼーションの進行するアメリカ社会で、女性たちがどのような役割を果たしたのか、また、こうした変化は「女性であること」の意味をどのように変化させていったのかを考える。社会福祉国家形成や戦争と平和運動、冷戦、フェミニズムの台頭と家庭の再編等に女性たちが担った役割を主に扱う。

BA231 ラテンアメリカ研究Ⅰ

ヨーロッパ文明と先住民文明が会ったラテンアメリカでは、それらの対立と融合を経て、独自の文明が形成されていると言われている。本講義では、そのようなラテンアメリカの形成と変容を理解することを目指す。具体的には、現代のラテンアメリカにおいてどのような問題が起こっているのか、そしてその背景には何があるのか、という設問に答えていく。その際には、欧米諸国や他の発展途上国で発生している問題との関連などを認識することが必要である。

BA232 ラテンアメリカ研究Ⅱ

19世紀前半に独立を達成したラテンアメリカは、第二次世界大戦後に独立したアジアやアフリカなどの発展途上国と比較して「中進国」と言われる。本講義では、そのようなラテンアメリカの形成と変容を理解することを目指す。具体的には、現代のラテンアメリカにおいてどのような問題が起こっているのか、そしてその背景には何があるのか、という設問に答えていく。その際には、欧米諸国や他の発展途上国で発生している問題との関連を認識することが必要である。

BA233 日米比較文化Ⅰ

幕末の開国から第二次世界大戦までの日米関係を比較文化史の視点から講義する。その際、学問・文化の交流だけでなく、移民や経済の交流にも注目するが、同時に、外交や軍事対立の背景にあるイメージ・ギャップの問題にも注目し、両国のナショナリズムの比較にも言及する予定である。また、適宜原史料を配付して、実証分析の方法にも言及するとともに、ビデオ教材を上映した上で感想文の提出を求め、講義内容の理解を促進する。

BA234 日米比較文化Ⅱ

第二次世界大戦後から現在までの日米関係を比較文化史の視点から講義する。その際、米国が中心的に実施した占領改革の諸側面に注目し、日本の文化や社会が「アメリカ化」した側面と逆に「アメリカ化」を拒んだ側面を比較検討する。また、高度経済成長期を経て、日本文化が逆にアメリカ合衆国に影響を与えた面にも注目して、講義する。その際、適宜、原史料を配付して、実証分析の方法にも言及するとともに、ビデオ教材を上映した上で感想文の提出を求め、講義内容の理解を促進する。

BA235 アジア文化比較論Ⅰ

「比較文化論Ⅰ・Ⅱ」「東南アジア文化論」「南アジア文化特論」「イスラム文化特論」などで得られた理解を基にして、アジア諸社会の文化的・社会的な多様性と共通性について通文化的な比較の視点からより深く学ばせる。この授業では南アジアおよび東南アジアにおけるジェンダー関係を中心にして、通文化的な比較研究の方法を理解するうえで適切なトピックをいくつか取り上げて講述する。

BA236 アジア文化比較論Ⅱ

「比較文化論Ⅰ・Ⅱ」「東南アジア文化論」「南アジア文化特論」「イスラム文化特論」などで得られた理解を基にして、アジア諸社会の文化的・社会的な多様性と共通性について通文化的な比較の視点からより深く学ばせる。この授業では南アジアおよび東南アジアにおける宗教を中心にして、通文化的な比較研究の方法を理解するうえで適切なトピックをいくつか取り上げて講述する。

BA237 宗教人類学

「文化人類学入門Ⅰ,Ⅱ」などで得た概括的な知識を基にして、宗教に関する民族学・人類学的な理解を深める。人類学・社会学・宗教学などによる宗教研究の歴史を批判的に概観したのち、人間の象徴活動、神話、儀礼、世界観、宇宙論、占い、呪い、治病、死、葬制、祖先崇拜、世界宗教(キリスト教やイスラム教など)への改宗、新興宗教運動など、宗教をめぐる多様なトピックのなかから事例を選んで講述する。

BA238 政治人類学

「文化人類学入門Ⅰ,Ⅱ」などで得た概括的な知識を基にして、政治に関する人類学的な理解を深める。人類学者による政治研究の歴史を概観したのち、人類のさまざまな社会における政治的行為、象徴的支配、権力・政治体制の類型論、戦争と平和、グローバル化、民主化、人権、コスモポリタニズム、移民、トランスナショナリティなど、多様なトピックのなかから事例を選びながら講述する。

BA239 経済人類学

「文化人類学入門Ⅰ,Ⅱ」などで得た概括的な知識を基にして、経済に関する人類学的な理解を深める。人類学者による経済研究の歴史を概観したのち、人類の経済活動の諸形態、親族関係に基づいた生産様式と資本主義的生産様式、資本主義が非西洋世界に与えた衝撃、第2次世界大戦後の先進国による開発援助とその帰結、20世紀末以来のネオリベリズムと現地社会、再生産され続ける低開発と貧困など、多様なトピックのなかから事例を選びながら講述する。

BA240 人種・民族・国民

「文化人類学入門Ⅰ,Ⅱ」などで得た概括的な知識を基にして、人種・民族・国民という今日の世界で最も大きな政治的問題性をはらむ3つ人間集団のカテゴリー、アイデンティティについてより深く学ばせる。人種、エスニシティ、ネーションなどの基本的な概念をめぐる混乱を批判的に整理したのち、人種差別、国民統合、民族紛争、ジェノサイド、労働者輸入など現代的なトピックスから事例を選びながら講述する。

BA241 ジェンダーと社会構造

「文化人類学入門Ⅰ,Ⅱ」などで得た初歩的な知識のうえに、人間社会の再生産と構造化の基盤をなすジェンダーと親族的・非親族的な人間のつながり方についてより深く学ばせる。この授業では、とりわけ家族、結婚、母中心家族、母系制、トランスジェンダーなど、女子学生が身近な関心を持つトピックスに焦点をあてながら、人類学の親族・婚姻の研究史を批判的に整理しつつ最新の知見も交えて論じ、現代日本の状況にも論及する。

BA242 人類学史

「文化人類学入門Ⅰ,Ⅱ」などで得た初歩的な知識を基にして、主に19世紀後半以降のフランス、ドイツ、オランダ、イギリス、南アフリカ、アメリカ合衆国、日本などにおける民族学・社会人類学・文化人類学の歴史をより深く学ばせる。その際、単に代表的な学者や理論を批判的に整理・紹介するにとどまらず、植民地支配、人種隔離政策、戦争、フェミニズムなど、その時々を政治的・社会的・思想的な問題とも関連付けながら講述する。

BA243 東アジアの文化と社会

文化人類学的視点と専門研究を援用しながら、東アジアにおける文化交流の様態や、社会と文化の相似性と相異性について考察する。中国、朝鮮、日本などの国や地域を「漢字文化圏」内として捉えながら、それぞれの文化の独自性と多元性も視野に入れ、儒教などの世界観、親族集団、地域共同体、戦争記憶などの角度からこの地域の文化と社会を理解する。

BA244 エスニシティ論

文化人類学における民族やエスニシティ、エスニックアイデンティティなどに関する視点や研究事例を紹介し、現代における「民族」問題を考える。民族とエスニシティの概念の転換、エスニックバウンダリー、民族共同体と象徴、移動・越境者とトランスナショナリズム、在日、中国朝鮮族などのテーマを取りあげる予定である。

BA245 周縁世界とグローバル化

人類学系の諸科目や「東南アジア文化論」「南アジア文化特論」「イスラム文化特論」などの理解の上に、周縁世界(特に東南アジア、オセアニア、南アジア、アフリカ)と先進世界との関わりを長期的な観点から理解させる。周縁世界の伝統的な部族社会、首長国、王国の生活様式、社会構造、政治システム、生産様式、宗教を概観した後、イスラム世界やキリスト教世界からの交易・布教の働きかけ、奴隷交易、植民地化、現地社会からの対抗運動、脱植民地化、資本主義の浸透など、多様なトピックから事例を選びながら講述する。

BA246 現代文化の動態

人類学系の諸科目や「東南アジア文化論」「南アジア文化特論」「イスラム文化特論」「周縁世界とグローバル化」などの理解の上に、東南アジア、オセアニア、南アジア、アフリカのポストコロニアル国家におい

て生じている様々な問題について、国家暴力、民族紛争、移民と難民、「民族」と「国民」、開発と貧困、グローバル化、疎外と搾取、AIDS、人身売買など、多様なトピックから事例を選びながら講述する。

BA247 国際関係(日米)

本講義では、第二次世界大戦以降の日米関係を、世界の中の日米関係と捉え、政治外交面を中心に概観する。増田弘・土山實男編『日米関係のキーワード』(有斐閣)などの基本的文献を手がかりにしながら、日米関係をより深く理解し、その将来を展望する上において必要な基礎知識や見方を学ぶことを目標とする。さらに日米関係のみにとどまらず、それを素材にして国際関係全般についても考察しうる力を養う。

BA248 国際関係(日中)

国際関係の中における日中関係という視点で、日中関係を理解させることを目標とする。日中関係は、米国、台湾、アジア諸国を巻き込んだ複雑な性格を持っている。満州事変等から始まる歴史問題、戦後のLT貿易・MT貿易、日中国交回復、対外開放政策に伴う日中経済関係、歴史問題・台湾問題によって影響を受ける日中外交関係、近年の多様化する摩擦などを論じる。いずれも、日本、中国、双方の視点から事象に分析を加える。

BA249 国際関係(日朝)

北東アジアの安全保障関係は、日米同盟と米韓同盟という2つの同盟関係から成立している。これらの同盟関係の基本的な力学を理解することを目標としながら、朝鮮半島をめぐるどのような相互作用をみせているのかを、朝鮮解放から1970年代の時期で考える。授業では米国を含む広い視野で日韓、日朝関係を概観することになるが、朝鮮半島における正統性の問題、戦後日韓関係の起点、日韓国交正常化の国際政治力学など基本的なものから説明する。

BA250 国際法

国際法の基本的原則・規則を学び、国際的諸問題や国際紛争への国際法のかかわり方を理解することを目的とする。国際法の内容、国際法の法的性格、国際法と国内法の関係、条約と慣習法、国家主権、国際法における空間秩序、人権の国際的保障、経済的国際協力と国際法、平和の維持と国際法、国際的紛争処理システム、武力紛争と中立法、国際組織と法、などのトピックについて解説していく。具体的な条約の条文などを参照しつつ国際社会における法の役割についての理解を深める。

BA251 中国政治・経済論

現代中国の政治・経済の構造と問題点を、立体的に把握することを目標とする。対外開放政策下の中国は、飛躍的な経済発展を遂げているが、同時に歪みも大きい。経済・産業の構造、中国政府による経済政策とその歴史、経済発展による問題点、経済を有効に機能させるための政治改革、共産党の一党体制と民主化の試み、法治と人権など、政治と経済に関する多くのテーマを論じる。党組織、軍・警察などの統治機能についても触れる。

BA252 香港・台湾論

香港、台湾の現状と、国際政治の中における位置付けを理解させることを目標とする。大陸の中国と異なった政治・経済体制の香港、台湾を分析することによって、中国自体の政治、経済、外交の性格を浮き彫りにすることも出来る。香港の歴史、香港の経済的役割、香港返還、返還後の中国の対香港政策、台湾の歴史、外省人と内省人の対立、台湾の民主化、中国との台湾海峡問題などを中心に講義を行う。

BA253 韓国政治・経済論

建国以来の韓国政治の基本的な歩みを理解することを目的とする。歴史的な流れを重視し、アメリカの比較政治学の理論を交えて韓国政治を構造的に理解することに重点をおきたい。特に統治機構、政党政治などにおいては比較政治学の枠組みを援用することによりできるだけ分かりやすく説明する。韓国の経済については政治とのかかわりが深いので、この講義では政治史との関連で取上げることとする。

BA254 現代アメリカ政治論

現代アメリカの政治制度、イデオロギー、政治的争点などにかんして基本的な知識を習得することを目標とする。大統領制、権力とリーダーシップ、議会制度、選挙制度、政策決定システム、2大政党制、保守・リベラルの2大イデオロギー、連邦制、などについて、歴史的な視点を踏まえつつ解説する。そして、それらの知識をもとに、現代アメリカ政治が抱える諸問題について、単なる政治評論にとどまらない総合的な理解を目指す。また、アメリカの特色を浮き彫りにするため、日本の政治との比較も必要に応じて行う。

BA255 国際政治経済Ⅰ

政治・経済・技術・戦略などが複雑に絡む国際政治経済学の理解を狙う。最初に現代の国際政治経済の概論を見てから、二国間の経済紛争の事例として、日米経済紛争の構造を国内政治、議会と行政府との対立、米国の法の特徴とリーガル・ハラズメント、国家戦略など米国側から見た分析をして理解を図る。

BA256 国際政治経済Ⅱ

政治・経済・技術・戦略などが複雑に絡む国際政治経済学の理解を狙う。GATTからWTOを中心とした多国間秩序への道程を講義し、特に知的財産権に焦点を当てて、著作権、特許権などに関する現代の多国間の経済紛争を考察する。出来るだけ具体的な事例から始めて、抽象的思考を可能にするために、Debateの手法を取り上げて2回ほど実施する予定である。

BA257 アジア国際関係論Ⅰ

アジアにおける国際政治の基礎的概念を理解することを目標とする。アジアの国際政治を理解するために必要な、アジアに関連する国際政治の基礎的概念、すなわち外交、戦争、植民地、ナショナリズム、帝国主義、国際主義、核武装の問題などについて説明する。その上で、日本外交、中国外交の特徴、性格を論じ、戦後東アジア国際関係の現状と全体像を理解させる。また、アジアに大きな影響力を持つアメリカ外交の特徴についても触れる。

BA258 アジア国際関係論Ⅱ

戦後アジアの国際関係の歴史を理解させることを目標とする。第2次世界大戦後、ヨーロッパで確立した戦後冷戦構造が、熱戦という形でアジアに飛び火し、アジアの冷戦構造を形作っていったことを説明する。その後、朝鮮戦争、ベトナム戦争を経て、90年代のソ連崩壊、中国脅威論に至る東アジア国際関係を、中国外交、日本外交を中心に論じる。アセアンの設立など、アジアの国際機構の役割と機能などについても触れる。

BA259 近現代日本研究(政治・外交)A

この授業では、近現代日本と世界、とりわけアジア諸国との関係を取り上げる。日本近代の展開は、アジアへの日本の侵略と表裏一体の関係にある。その行き着く先が、アジア・太平洋戦争における日本の敗戦である。戦後の日本は、そうした負の遺産をアジア諸国との間で清算することから始まったが、それは大きな問題点を内包するものであった。そこで本講では、主として日本の戦争責任や戦後責任、そして戦後賠償や個人補償等の問題を検討する。

BA260 近現代日本研究(政治・外交)B

「太平洋戦争への道」を日本近代の歴史のなかでどのように理解するのかという問題に対する代表的な解釈を提示したうえで、1920 - 30年代の日本の歩みを、主として体制変動と政治的リーダーシップの観点から考察してみたい。具体的には「東京裁判史観」、「講座派史観(マルクス主義的歴史観)」、「十五年戦争論」、「革新派論」、「総力戦体制論」、「自由主義史観」、東京裁判関係ビデオなどを通して「太平洋戦争への道」に関するさまざまな見方を検討する。

BA261 アメリカ研究(政治・外交)I

アメリカの政治・外交の特質について、歴史、社会、経済、思想、国際関係など、さまざまな角度から論じ、総合的体系的に理解することを目標とする。特に、歴史的な視点、アメリカにおける国内政治と外交の連関、国際社会におけるアメリカの位置づけ、などを重視し、個別の事象の表面的な理解にとどまらない、立体的なアメリカ像の構築を目指す。本講義では、アメリカ政治・外交の成り立ちからその展開過程を中心に考察する。

BA262 アメリカ研究(政治・外交)II

アメリカの政治・外交の特質について、歴史、社会、経済、思想、国際関係など、さまざまな角度から論じ、総合的体系的に理解することを目標とする。特に、歴史的な視点、アメリカにおける国内政治と外交の連関、国際社会におけるアメリカの位置づけ、などを重視し、個別の事象の表面的な理解にとどまらない、立体的なアメリカ像の構築を目指す。本講義では、「アメリカ研究(政治外交論)」を踏まえ、政治・外交の変容や現代的意義を中心に考察する。

基盤演習

BA301 基礎演習(国際関係)

新入生を大学での勉強に慣れさせることを目標にして、スタディ・スキル(レポート・小論文の書き方、口頭発表の仕方、図書館やインターネットを使った文献の探し方など)の教育、スチューデント・スキル(大学生に求められる一般常識や態度など)の教育を重点的に行うとともに、専攻を構成する複数のディシプリンのひとつについて初歩的な理解を持たせる。

BA302 2年次演習(国際関係)I

1年次の演習に引き続きスチューデントスキル、スタディスキルを習得させ、専攻を構成する複数のディシプリンのひとつについてその基礎を理解し、学生各自が自分の個人的な問題意識を他人にも理解できる言葉で表現し議論ができるよう訓練するとともに、3年次における専門教育への橋渡しとなるような基礎的知識や、より高度な専門的知識を教え始め、どの専門分野に進むかを学生が自ら選択できるよう各自の問題意識を高めていく。

BA303 2年次演習(国際関係)II

「2年次演習(国際関係)I」に引き続き、スチューデントスキル、スタディスキルを習得させ、学生各自が自分の個人的な問題意識を他人にも理解できる言葉で表現し議論ができるよう訓練するとともに、3年次における専門教育への橋渡しとなるような基礎的知識や、より高度な専門的知識を教え始め、どの専門分野に進むかを学生が自ら選択できるよう各自の問題意識を高め、年度末の小論文作成の指導を行う。

発展演習

BA401 社会調査実習

社会学、経済学、国際関係という各々の専攻領域において社会調査を行うことの意味と何かという理念的な側面、その専攻領域で採用される調査方法の概要、量的調査法、質的調査法の使い方(調査票の設計、サンプリング、調査の実施、コード化と集計、結果の解釈、報告書の作成など)などについて学ぶ。自ら質問紙調査、聞き取り調査などを行うことを学ぶことで、社会調査の方法を卒業論文研究にもちいるための準備とする。

BA402 3年次演習(国際関係)I

卒業論文を作成する前段階として、各自の専門研究を深めることを目的とする。指導教員が専門とする応用講義の科目を受講して専門分野についての知識を深めると同時に、演習では教員の指導を受けながら、方法論をマスターし、次年度に備えることがこの演習の主要な課題である。クラスによっては共通のテーマを設定して共同作業を行う場合もある。

BA403 3年次演習(国際関係)II

卒業論文を作成する前段階として、各自の専門研究を深めることを目的とする。演習では先行研究の調査を行いつつ研究テーマを絞り込み、プレゼンテーションを通じて相互に議論をし、客観的に自分のテーマを見つめていく作業を行う。卒業論文の練習としてゼミ論文を作成することをこの演習の最終目的とする。

BA404 4年次演習(国際関係)I

入学以来、3年次までの演習で習得した発表と討論の力を生かし、卒業論文の構成や準備状況を口頭で発表する。これらの報告や討論は、テーマに関する専門知識の交換の場となると同時に、自らの卒論作成準備を客観的に見直し、専門分野への知的好奇心を深化させる機会となる。あわせて卒論の目次立てを完成することがこの授業の目標となる。論文作成のためのガイドラインを確認し、論文作成準備を進めていく。

BA405 4年次演習(国際関係)II

「4年次演習(国際関係)」に引き続き、卒論作成の進捗状況を口頭報告させ、それぞれの研究テーマにふさわしい方法論を用いて、より説得力があり、バランスのとれた専門性の高い内容の論文として完成させるために必要な力を養う。口頭発表、演習履修者全体での討論や意見交換、指導教員のアドバイスなどにより各自が新たに得た学問的発見を論文に反映できるよう、教員は学生の進度に合わせた指導を行う。卒業論文作成の過程を通し、自分で物事を考え、整理し、主張をしていくという社会人としての基本的要件も同時に習得させる。

経済学専攻

入門

BB001 ミクロ経済学入門

経済全体の動きを大きく捉えようとするマクロ経済学に対して、ミクロ経済学は、消費者や企業による消費や生産という身近な経済活動を出発点として、希少な資源の有効活用という問題に対して市場がどのような働きをしているのかを分析するものである。「ミクロ経済学入門」では、経済学専攻以外の学生も対象として、経済学的な考え方に慣れ親しむことから始める。その上で、基本的なミクロ経済学の知識を身に付け、現実の経済についての理解を深めることができるようにしてゆきたい。

BB002 マクロ経済学入門

日本経済は世界第二位の規模を誇りながら、米国発のマクロショックに絶えず揺さぶられてきた。2007年に発生した米国サブプライムローン問題の影響もそのひとつである。そうしたマクロショックは金融システムや景気や雇用を通じて私たちの生活に影響を及ぼす。この授業の主軸は、マクロ経済学の基礎的な概念と理論を学ぶことであるが、財政政策と金融政策の観点から日本経済が直面する諸問題と課題を理解することを目指す。

基盤講義

BB101 初級ミクロ経済学

「初級ミクロ経済学」では、「ミクロ経済学入門」からの発展として、まず、消費者行動における無差別曲線分析、生産者行動における生産関数や費用関数の分析を詳しく説明し、完全競争市場の特徴を考察する。つぎに、環境問題など、価格メカニズムがうまく働かない「市場の失敗」のケースを紹介し、これらの問題への対応としての市場への(政府)介入の意義と限界を検討する。最後に、現実の経済において多く見られる不完全競争の分析を概観する。

BB102 初級マクロ経済学

入門編ではマクロ経済学の概念に親しみながら、現実に展開する日本の財政、金融、国際収支などの諸問題を理解することを目指した。これは専攻を越えてひとりの大人として経済社会で生きて行くための基礎知識である。次の初級編では、ケインズの一般均衡理論から始まって、少し複雑な理論構築のおもしろさを理解することに挑戦する。具体的には、貨幣の需給と利率、IS-LM分析と財政金融政策、国際マクロ経済分析、経済成長理論などを扱う。

BB103 中級ミクロ経済学

ミクロ経済学の初級程度の知識を持つ学生を対象に、ミクロ経済学理論を数学的にとらえ直し、より多面的に、より深くミクロ経済学を理解しようとすることを基本的な目的とする。この科目でいう「ミクロ経済学」と

は、「マクロ経済学」と双璧をなす「理論経済学」であり、経済学を専攻する学生は必ず知っていなくてはならない基礎理論のことである。この基礎理論を習得することにより、経済学の方法論に基づいた社会問題の分析能力を養成する。オーソドックスなミクロ経済学の構成にしたがって講義は展開される。

BB104 中級マクロ経済学

「初級マクロ経済学」を学んだ学生を対象に、中級レベルのマクロ経済学について、以下の順で講義をすすめる。初級レベルのマクロ経済学の復習、国民経済計算の考え方と方法、GDPの決定理論、IS-LM分析(生産物市場の均衡とIS曲線、貨幣市場の均衡とLM曲線)、AD-AS分析(総需要・総供給モデル)、経済成長理論、国際マクロ経済、環境経済学、日本経済の分析、経済学の諸問題。

BB105 公共経済学

経済学の基礎理論に立脚して、経済政策の分野に適用するために必要な経済学の応用理論を習得することを目的とする。経済政策の分野で必要とされる理論の1つに公共経済学があり、これは実際に行われている多様な経済政策の分析を行うにあたって必須の基礎的な経済理論である。実際の経済問題への適用はこの科目では行われませんが、実際の経済問題の適用を考えると公共経済学の知識は不可欠である。この科目では、さまざまな政策の評価を行うための規範的分析について述べる。

BB106 経済政策

これまでに習得した経済学(特にミクロ経済学)の基礎理論、ならびに政策分析の手法として有効な公共経済学の理論をもとに、それらを現実の経済問題に適用することを目的とする。経済政策の分野で必要とされる理論の1つに公共経済学があり、その理論に基づいて実際の経済問題を分析するが、ここでは最も身近な問題の1つである、交通問題を取り扱う交通経済学について取り上げる。交通経済学では、交通問題としていつも議論の対象となる運賃・料金、投資、補助、規制の問題などについて分析が行われる。

BB107 経済学史

経済学は、経済現象を普遍的に説明しようとする時代を超えた側面と、その時々を経済的課題や社会問題を解決しようとする時代に規定された側面とを併せ持っている。したがって、経済学の歴史を学ぶことによって、現代理論がより良く理解できるようになるだけでなく、現代に通じる問題に対する過去の経済学者たちの取り組みから多くの示唆を得ることが可能である。この観点から、代表的な経済学者を中心に経済理論の歴史的展開とともに、彼らの問題意識や人間観・社会観も講義することにしたい。

BB108 経済史

現代経済の基盤である市場経済の成立と変容を、世界市場との関連を意識しながら概観する。講義内容は、1)イギリスを中心とした西ヨーロッパにおける市場経済の成立プロセスを、工業資本と商業資本双方の役割に焦点を当て解説する。2)現代経済の原型ともいえるアメリカにおける市場経済の発展を考察する。3)開港期から高度成長に至る日本経済の発展を、後発国の市場経済化の問題として、検討する、の

3つの部分に別れる。いずれのケースでも、生産分野での変化が消費者の生活をどのように変化させたのかという点にも注意してゆく。

BB109 経済数学

経済学を皮相的にではなく、本格的に理解し、その本質を見極めようとするならば、数学の基礎をしっかりと固めて、ミクロ・マクロ経済学を数学的に理解することが必要である。そのため、この科目では、経済学を理解するために必要となる基本的な数学の手法を身につけることを目的とする。経済学の分析の面白さとその論理性を理解するための基礎として、この科目は開講される。本授業のスケジュールに従って数学的手法を身につければ、たいいていの経済学の論文は読みこなせるようになる。

BB110 統計学

近年、統計的分析はあらゆる学問分野で盛んに行われている。この講義では、入門レベルの統計学を、毎回練習問題を解きながら、分かりやすく解説していく。具体的には、変数の区別、度数分布、中心傾向の測度、散らばりの測度、ローレンツ曲線やジニ係数などのその他の測度などを取りあげる。そして、社会科学分野の統計データを自分自身で分析したり、解読するために必要な基礎的統計学についての知識を習得することが目標となる。

応用講義

BB201 国際経済学Ⅰ

国境を越えるモノ、カネ、ヒト。私たちはいやおうなく進行する市場経済化とグローバル化のただ中にいる。この授業では、国際金融の基本的な概念、理論、制度を学びながら、戦後の国際金融史上に残る巨大なマクロ経済ショックの事例を分析し、現代的な経済危機への対策を考える。また、多様化するデリバティブ、巨大化するファンド、複雑化する証券化商品、会計基準の国際標準化、IMFの役割など、現代の国際金融を大きく揺さぶるアクターの動向に注目する。

BB202 国際経済学Ⅱ

この授業では、国際貿易の基本的な概念、理論、制度を学びながら、各国経済のリンケージの変化(BRICs 台頭の影響、地域経済圏の生成、WTOの頭越しに進行するFTA)と発生している問題(貿易摩擦、知的財産権の保護や国内産業保護をめぐる対立、安全性・人権・環境の浸食)を明らかにする。また、今や事務、医療・介護、軍事分野にまで拡大した民間委託、国際アウトソーシング、外国人労働者の利用の実態についてもふれる。

BB203 開発経済学Ⅰ

開発経済学は、人々の生活や人生に多大な影響を及ぼす貧困や経済格差の問題を扱い、その原因を一国及び地球規模で分析し、より良い経済発展の方法を探るための学問である。「開発経済学Ⅰ」では、貧困や格差の計測手法と開発理論の発展過程を学ぶ。適宜事例研究をもちこみ、実態の紹介も行う。ま

た、ガバナンス(行政機構の規律と能力)の欠落、民主主義と法の支配、ジェンダー(社会的文化的性別)、環境破壊、紛争といった今日の問題との関連を検討する。

BB204 開発経済学Ⅱ

「開発経済学Ⅱ」では、現代の発展途上国が直面する国内問題と国際問題に焦点をあて、その問題を論じる際の理論的枠組み、問題の現状、解決のための政策を、事例を交えながら紹介する。具体的には、人口問題、人的資本とソーシャルキャピタル、失業及び不完全就業、農業及び農村発展、産業育成、環境問題、国際金融体制、国際協力のあり方などを扱う。

BB205 計量経済学Ⅰ

社会科学のための統計解析ソフトウェア「TSP」を用いて、統計分析を実践する方法を講義する。中心的傾向の測度、散らばりの測度から出発し、確率変数と確率分布、平均や比率などの推定とその検定、さまざまな種類の相関係数とその検定、回帰分析まで取り上げる。卒業論文の作成に役立つよう、毎回さまざまなデータを使用した分析を行う。なお、統計学、コンピュータを全く知らないものとして講義を始める。毎回、情報処理教室で講義を行う。

BB206 計量経済学Ⅱ

「計量経済学Ⅱ」に引きつづき、社会科学のための統計解析ソフトウェア「TSP」を用いて、回帰分析のより詳細な解説とともに、主成分分析の理論と応用など、統計分析を実践する方法を講義する。卒業論文作成に役立つよう、毎回さまざまなデータを使用した分析(非線形式の回帰分析、重回帰分析、パネルデータの分析、産業連関分析など)を行い、最後に多変量解析のまとめをする。

BB207 金融論

この授業では、(1)政府の役割と財政政策、通貨と日本銀行の金融政策など、金融の基礎から出発して、金融システム、金融機関行動と金融政策、市場メカニズムと金利形成、国際金融取引まで幅広く応用分野をカバーして、金融を理解する前提となる理論的なフレームワークを提供するとともに、(2)現代の金融問題の中で、金融システム安定に向けたプルーデンス政策、金融システムにおけるイノベーションについて、実践的な検討を行うことを目指している。

BB208 財政学

財政学は、租税や公債などによる財源調達(どのような方法で、何を基準に、何の名目で)をもとに、国民生活をささえる多岐にわたる政府の経済活動と、そのためにそれらをどのように効果的に用いるかについてを考察する学問である。講義では、公共投資や社会保障などの政府支出の経済的役割とその効果、租税を中心とする資金調達のあり方、さらには地方財政や国と地方の財政関係の役割などについて経済学をベースとした財政の分析を試みる。

BB209 環境経済学

環境問題をミクロ経済学の枠組みにあてはめることにより、その問題の所在を理解し、解決法について考えることを目的とする。環境問題が市場の失敗の結果、生じるものであることを理解し、社会的余剰の最大化を達成するためには環境問題を市場の中に内部化する必要性があることを示す。そのための政策的手法として、規制的手法、経済的手法についてそれぞれ学ぶ。また具体的に都市型の大気汚染の問題と地球環境問題について論じ、この問題に対して内外で実際に導入されている諸政策について学ぶ。

BB210 産業組織論

産業組織論は反独占政策の基礎理論として発展した応用ミクロ経済学の一分野であり、市場構造と市場成果の関連をめぐって、ハーヴァード学派とシカゴ学派のあいだで激しい論争が繰り広げられてきた。この講義では、第3の潮流として1970年代に一躍主流派に躍り出た、ゲーム理論の成果を取り入れた新しい産業組織論(New Industrial Organization Theory)の基本事項を学び、企業の戦略的参入阻止ゲームを考察する。さらに、コンテストブル市場の理論を概観し、インターネット経済について考えたい。

BB211 情報経済学

伝統的なミクロ経済学は完全情報を前提としていた。しかし実際、経済に関する情報は偏在しており、不完全な情報に基づいて行動せざるをえない場合が多く見られる。財の品質、経済主体の行動・能力・選好等に関するさまざまな情報の保有量が経済主体間で異なることを情報の非対称性と呼ぶが、「情報経済学」では、この情報の非対称性が経済に及ぼす影響(例えばモラル・ハザードや逆選択といった資源配分上の問題が起こること)を明らかにし、その対策を検討する。

BB212 都市・地域経済学

都市の空間的経済構造に対してミクロ経済学の分析手法を用いて理解することを目的とする。まず、都市の成立、発展の諸要因について知識を深め、経済活動の立地と土地利用に関する理論を学ぶ。さらに、現代社会が抱える土地問題、住宅問題、都市交通問題などの個別のテーマについて知識を深め、この諸問題に対する政府の役割について考える。必要に応じて地域分権化の流れを受けたまちづくりの現状や都市の設計等、日本の地域や都市の現状についても具体的に言及する。

BB213 労働経済学

この講義は、「働くこと」とは何かに焦点を当て、その諸側面を家計・企業・一国の経済現象の中で包括的に捉えることを目的とする。基本的な理論枠組みを理解し検証するためには、それにふさわしい新しい資料や統計手法が求められる。そのため講義ではできるだけ、現実の社会に見られる労働の具体的な諸現象を題材にして、新しい資料や統計手法の紹介も含めて労働経済学のトピックスを取り上げていく。特に女性労働に焦点をあて、女性が労働者として直面する現状と課題を理論と実証研究の両面から講義する。

BB214 ゲームの理論

ゲーム理論は、集団において、何らかのルールに従って行動する複数の主体の意思決定が戦略的に相互に影響を及ぼし合う状況を分析する。この主体間の相互依存関係を取り扱うゲーム理論は、経済学にとどまらず、経営学、政治学、社会学、さらに生物学等、広範な分野で有効な分析道具となっている。とりわけ、不完全競争市場における企業等の戦略的行動を分析するマイクロ経済学の習得には必須であろう。この授業では、身近な経済の例を用いて、わかり易く解説する。

BB215 ジェンダーの経済学

この授業では、主流派経済学が構築した理論やそれに基づいて構築された諸制度に関して、ジェンダー視点から分析するための方法を学んでいく。まずフェミニスト経済学の分析視角や理論展開を学び、その理論を実証分析に活用する方法を検討する。具体的には、ジェンダー分析を国家予算の分析に応用する方法として、世界 60 カ国以上の国で実施されているジェンダー視点に立った予算分析 (gender budget analysis) を取り上げる。

BB216 現代経済論

現代日本を取り巻く経済問題はより一層複雑になってきている。こうした経済問題に対する処方箋として提案される主張は百家争鳴の感があり、正反対の主張がなされることもある。本授業においては、これらのさまざまに提案される主張を整理するために、経済学の考え方を活用し、経済学の観点からそれらの主張の本質を明らかにすることを目標としている。本授業を履修することによって、一見複雑に見える多くの提案の内容を解きほぐす能力を身につけることを目指す。

BB217 日本経済史

この講義では、近世から近代の日本を対象に、経済成長とその源泉、成長のプロセスと帰結を、比較史的に検討する。日本経済の成長プロセスを追うことによって、経済発展論の基本概念を学ぶとともに、それらの概念を比較史の文脈で理解することがこの講義の目標である。具体的には、国際経済の枠組みの中での先進経済とのかかわり、政府の果たした役割、在来産業と近代産業および都市と農村との関連、資本・労働・スキルの変化などを検討する。

BB218 国際経済史

この講義では、工業化以降のイギリス経済を中心に国際経済史を検討する。従来の一国経済を中心とした経済史の見方・考え方を、広く、国際経済史、比較経済史の観点から理解することを目標にしている。イギリス産業革命を世界市場との関連で捉え直し、その世界経済への影響を考察するとともに、自由貿易帝国主義に代表される経済的ナショナリズムと日本を含む後発国の工業化の問題、自由貿易と保護主義の対立などを取り上げる。

BB219 経営史

近年企業の社会的責任 (Corporate Social Responsibility) 論が活発に展開されているが、この講義では、19 世紀後半から 20 世紀にかけての創業者企業家の社会活動と、「所有と経営の分離」以降の大企業に

における CSR の捉え方を比較検討することにしたい。まず、イギリス、フランス、ドイツと先進経済における CSR の原初的形態を観察し、つぎに、アメリカ、日本における現代の CSR を概観する。さらに、CSR の主張の背景にあるビジネスとモラルの関係についても、歴史的に検討する。

BB220 経営学概論Ⅰ

この授業は、「経営学とは何か」を理解することを目的としている。まず、経営学の研究対象や学問領域における位置づけについて概説し、企業の特徴や株式会社の仕組みなどについて学ぶ。その後、様々な経営学の理論について、古典理論、新古典理論、近代理論、さらには、今日的経営課題に対応する理論など、歴史的変遷を概観し、個々の理論の特徴およびその後の研究成果への影響について検討する。

BB221 経営学概論Ⅱ

「経営学概論Ⅰ」で取り上げた様々な経営理論を基礎にして発展してきた経営学の研究領域のうち、経営組織論、経営戦略論、人的資源管理論、リーダーシップ論、マーケティング論、日本的経営論、企業と社会を取り上げ、それぞれの個別の理論を概説する。また、M&A の活発化や CSR(企業の社会的責任)、企業倫理、企業統治の重視のような企業を取り巻く経営環境の変化に伴う企業の新しい行動についても学ぶ。

BB222 簿記論

この科目でいう簿記とは複式簿記をいう。複式簿記とは企業の経営活動を貨幣という共通尺度を用いて、記録、計算、作表する世界共通の技術体系である。会計学関係のみならず経営学関係の科目を学ぶ際の基礎となる科目である。具体的には複式簿記原理の理解、勘定科目ごとの仕訳処理、帳簿の種類と記帳の理解、決算時の仕訳処理、試算表や精算表の作成、損益計算書や貸借対照表の作成等を学習する。企業形態としては個人商店を前提とし、複式簿記の基礎的理解と技術を修得することを目標とする。

BB223 会計学概論

この科目では、株式会社における会計の基礎を学ぶ。株式会社の資金は外部の投資家や債権者から調達される。株式会社の経営に責任を持つ経営者は、調達された資金の運用に責任を負うとともに、定期的に外部に財政状態と経営成績等を報告しなければならない。この科目を通して、株式会社における会計の社会制度的仕組み、外部に報告される貸借対照表や損益計算書等の財務諸表の読み方と分析、企業経営のために利用される会計技術、会計監査と公認会計士の役割等について学習する。

BB224 マーケティングⅠ

マーケティングは、定義の進化と広い研究領域を持ち、経営での実践を併せ持つ、ダイナミックな学問である。近代マーケティングの構成は、マーケティング・マネージメントをコアに、マーケティング戦略、マーケティング・リサーチ、消費者行動論、プロダクト・マネージメント、広告論、流通論と、新しい展望領域(サービス、エコロジー等)に大別できる。本講では、近代マーケティング全体構成を把握し、マーケティング

の中核であるマーケティング・マネージメント、マーケティング戦略、プロダクト・マネージメントの理論習得を目指す。

BB225 マーケティングⅡ

マーケティングは、周辺の学際領域を取り込みながら、広い研究領域を持つ学問であると共に、実経営の現場でも実践され、企業経営の一翼を担うものでもある。本講では、「マーケティング」で学んだ中核知識を基に、発展理解として消費者行動論、マーケティング・リサーチ、新領域としてサービス・マーケティングについての理解を深める。更に、マーケティングの実際を理解するため、ケーススタディを行い、テーマに則した最適なマーケティングとは何かを考察し、実務適用性のある理論習得を目指す。

BB226 保険論

私たちの生活は、交通事故、火災、地震、疾病、高齢化など様々なリスクにさらされている。これらのリスクから私たちを守るために、保険は必要不可欠な存在である。この授業では、保険の意義と役割について、リスクマネジメントと保険、私保険と社会保険、保険料のしくみといった基礎から解説し、火災保険・自動車保険・第三分野の保険(医療・傷害・介護)・生命保険(年金を含む)の意義と役割を考察し、最近の保険業の動向と問題点を検討する。

BB227 証券論

「貯蓄から投資へ」の流れの中で、証券市場を取り巻く環境は大きく変わってきている。この授業では、証券市場が私たちの生活・ライフプランにどのように係わっているのかを具体的に見てゆくことにしたい。まず、金融・証券の基礎知識を解説し、証券市場の役割とその歴史の変遷を概観する。ついで、証券関連規制の緩和が証券会社に及ぼした影響や、個人投資家の増大が証券市場に及ぼした影響など、最近の変化を踏まえた上で、証券投資の心構え、資産運用について学習する。

BB228 中小企業論

メディアは大企業に注目を集めがちだが、優れた中小企業も決して少なくない。とくに、商品企画や消費文化の開発において、創造的な中小企業が数多く観察される。この講義では、そのような創造的日本企業(主に中小企業だが理解のため大企業との比較検討を含む)について、商学・経営学の予備知識からじっくり考察を加え、実務に携わる企業人(経営者・実務家)を招いて実体験を伺う機会も設けながら、受講者の社会的活動の現場で活用可能な教養を深めることを目標とする。

BB229 経済法

この授業では、経済法の中でも、国際社会における国家や企業の経済活動から生じる利益調整問題を包括的に取り扱う国際経済法を主に論じる。競争法、金融法、租税法等、広範な主題に関わる国家法と国際法、私法と公法、実体法と手続法等につき法学初級者向けに基礎知識を説明する。個別のトピックとしては、近年問題になってきている、国境を越える労働者を取り扱う国際労働法、知的財産権重視政策の基盤である国際知的財産法、国際的な環境対策のための国際環境法などを取り上げる。

BB230 企業法

この授業では、商法の重要分野について、ひとつおりの知識を体系的に習得することを目標にする。単に「法律がどうなっているか」だけでなく、「なぜそうなっているか」という点を理解できるようにしたい。もっとも、企業に関わる法は幅広く存在し、その全てを網羅的に学習することは不可能である。そのためこの授業では、特に重要と思われる分野、会社の運営に関する法(会社法)および証券市場に関する法(証券取引法)を中心に取り上げる。

BB231 労働法

この授業では、まず、国民の8割以上を占める雇用者に関する法制度である労働法の歴史と基本的仕組みを概説し、労働者の権利と義務といった労働法の基本的な考え方を明らかにする。その上で、労働契約、賃金、人事異動、労働時間、ハラスメント、解雇、団体交渉など、労働のあらゆる場面に対応する法知識の習得を目指す。また、女性と雇用社会に関する課題や近年大きな問題になっている非正規労働の問題を重視する。学生にとっても、アルバイトを通じて身近な問題である労働の問題を法律的に考えることができるようになることを目指す。

BB232 日本経済総論

戦後日本経済の歩みと今日の日本経済の課題について、財政政策、金融政策、競争政策などの経済政策が果たしてきた役割について考える。講義では、新聞、雑誌、白書などを使用しながら、日本経済の現実の動向や論点を紹介しつつ、経済学の基礎的な知識がこうしたイシューを理解する上で有益なツールになりうることを解説する。また、今日の日本経済の抱える問題を論じている海外の新聞記事(英語)をいくつか紹介し、日本経済のこれからのあり方が我が国のみならず近隣諸国にとっても重要な関心事となっていることを学ぶ。

BB233 日本地域経済論

現在、WTO 体制下における農産物の貿易自由化や担い手選別を図る農業政策を背景に、地域社会の基幹産業である農業をめぐる環境は厳しい。そのうえ、若者の人口減少や担い手不足によって、地域社会では「過疎」問題が深刻化している。こうして地域社会では、地域資源を有効に活用した地域振興や地域活性化に取り組んでいる。この授業では、様々な具体的な事例をあげ、「都市と農山村」「中央と地方」の歪んだ構造を把握し、地域社会をとりまく諸問題を理解する。

BB234 アメリカ経済論

この授業では、1980年代以降の経済政策を中心に戦後のアメリカにおける経済政策を講述する。アメリカの経済政策は、主流派が需要サイド重視の経済学から供給サイド重視の経済学へと移行したマクロ経済学の影響を強く受けている。そのため、講義ではマクロ経済学の考え方を説明しながら、現実の経済政策を考えてゆく。具体的なトピックは、ニューエコノミクスとケネディ・ジョンソン期の経済政策、サプライサイド経済学とレーガノミクス、労働生産性の上昇とニューエコノミーなどである。また、経済政策には大統領制や連邦制というアメリカ独自の制度が色濃く反映されており、その点についても説明する。

BB235 EU経済論

欧州連合(EU)の成立とユーロの導入は、欧州の人々が50年越しの努力をした成果である。この講義では、まず、その背景を理解するために、成立の歴史的過程を辿り、EU憲法条約を解説する。つぎに、EU経済を理解するために、欧州の為替制度の変遷とユーロの導入、その経済効果、および経済の収斂と最適通貨論、安定成長協定を概観することにした。最後に、EUの拡大にともなう今後の課題を展望するとともに、その他の地域における経済ブロック化の動向との関連を検討する。

BB236 アジア経済論

東南アジア諸国における経済と社会の変容を、植民地化、独立、国家統合、経済開発、政治体制、社会開発、地方分権、民主化、ガバナンスなどのテーマを通じて学ぶ。そのさい、東南アジアを第三世界やアジア全体との関連で、また、「開発過程」というものを政治と経済と社会が一体となったシステムとして分析する。さらに、開発経済学や比較政治学の基礎的概念も習得するようにつとめる。

BB237 中国経済論

中国の経済発展過程を歴史、成長と構造変化、開発戦略といった多様な角度から叙述し、計画経済から市場経済への移行過程にある現代中国経済の直面する課題と今後とを平易に解説する。また、中国の経済に関する新聞や雑誌の報道を理解する基礎的な能力をつけることも目標とする。中国経済に関する新聞・雑誌記事を題材にしなが、中国に関する知識をつけ、経済問題に対する見方を養う。

BB238 国際地域経済論

中国とインドの台頭によってアジア経済に対する注目度はますます上昇しているが、世界経済のアクターはアジアだけではない。この授業では、豊かな資源に恵まれながら紛争や感染症や環境破壊の影響でこの10年で貧困層の数が1億人増加したといわれるアフリカ地域や次々に左翼政権が誕生し米国の影響下からの脱却をはかろうとするラテンアメリカ地域などを取り上げ、これら地域の歴史的背景、実体経済と金融に対する大国・国際機関・多国籍企業の関与、経済の現況、経済政策の方向性、そして世界経済へのインパクトなどを論じる。

基盤演習

BB301 基礎演習(経済学)

これから経済学を学ぼうとするにあたって、そもそも経済がどのような仕組みで機能しているのかを知らなければ学習は意味をなさない。この科目では、経済の仕組みをまず理解し、どこに問題があり、それをどのように取り扱っていくのかについて関心を高め、社会問題について経済学の立場から取り組む姿勢を確立することにする。またそれと同時に、これから経済学を学ぶための学術的な技法も習得することにも重点を置く。具体的には、レポートの書き方や議論の仕方について学習する。

BB302 2年次演習(経済学)

「2年次演習(経済学)」は、英文テキストの読解を通じて、1年次に学んだ経済学の基本に対する理解を深めることを目標としている。英文テキストをじっくり読むことによって、専門用語の定義をしっかりと習得することができるだけでなく、論理的な思考方法と経済学的な考え方を身につけることができるだろう。この理論的な基礎にたつて、3年次からの応用演習への導入として、経済の各分野における理論と現実との対応関係を自分自身で考えることができるようにそれぞれの演習でのテーマが設定されている。

発展演習

BB401 社会調査実習

社会学、経済学、国際関係という各々の専攻領域において社会調査を行うことの意味と何かという理念的な側面、その専攻領域で採用される調査方法の概要、量的調査法、質的調査法の使い方(調査票の設計、サンプリング、調査の実施、コード化と集計、結果の解釈、報告書の作成など)などについて学ぶ。自ら質問紙調査、聞き取り調査などを行うことを学ぶことで、社会調査の方法を卒業論文研究にもちいるための準備とする。

BB402 3年次演習(経済学)

「3年次演習(経済学)」は、1・2年次の基礎演習で獲得した理論をそれぞれの経済学分野に応用し、現実経済の動きを自分自身で分析できるようにする。公共経済学、環境経済学や開発経済学などの分野による区分、中国やアジア、あるいはヨーロッパやアメリカなど対象国・地域による区分、計量的アプローチや理論的アプローチあるいは歴史的アプローチとアプローチごとによる区分の3種類を組み合わせ、学生は自らの関心にしたがって演習を選択することができる。

BB403 4年次演習(経済学)

「4年次演習(経済学)」では、各分野の知識を深化させ、各自がテーマを絞ってより専門的な学習を行うとともに、相互の議論を通じて、主体的に研究を進展させる能力を養う。卒業論文の作成とも連動させながら、先行研究のリサーチ、必要な資料・文献やデータの収集と整理、論文の構成の立て方など、論理的・客観的な学術論文を執筆できるようにする。

社会学専攻

入門

BC001 社会学概論Ⅰ

「社会学概論Ⅰ」では、人と人との関係から生み出されるさまざまな一般的テーマ(行為、集団、社会プロセス、「個人と社会」など)を取り上げることで、多種多様なものごとを社会学の観点から見ていくために必要となる手続きの輪郭を示す。次のような項目で講義は進行する。イントロダクション、社会学の見取り図、社会のモデル化、「社会と個人」という問題設定、社会から個人へ(社会的事実)、個人から社会へ(行為の意図せざる結果)、役割、支配と服従、予言の自己成就、自我とコミュニケーション、集団と組織、都市と人間生活。

BC002 社会学概論Ⅱ

「社会学概論Ⅱ」では、われわれが暮らす「社会」は社会学のまなざしのもとでどのように記述されてきたのか、また、それによってどういうことが発見されてきたのかを紹介しつつ、いまここにある「社会」とかかわりあって暮らす自分自身の存在について考えるためのツールを提供する。講義の項目は次の通り。近代社会とリスク、社会的性格、消費社会における欲望と差異化、自己のテクノロジー、メディアと社会変動、マス・メディアと世論形成、家族の社会学、近代家族論、近代家族とジェンダー、学校化される社会、文化的再生産、世界社会論。

基盤講義

BC101 社会学史Ⅰ

社会学の抽象的・思弁的に見える理論がいかに具体的な社会状況と関連しているのかという点に着目し、社会学という学問の輪郭を把握する。社会学の黎明期から 20 世紀初頭までの社会学の歴史を、労働、社会分化、宗教、都市などのキーワードから複合的に把握する。社会学的発送の成立からはじめ、社会学の洗練に向けた一般社会学への志向、社会学の対象と方法の確定、理念型、分業と行為、宗教と社会統合、形式社会学といったトピックを概観し、その上で都市問題と社会学という観点から総括を行う。

BC102 社会学史Ⅱ

社会学はどういう問題に答えようとしてきたのか、社会学の理論がいかに具体的な社会状況と関連しているのかを見ることを通じ、社会学という学問の輪郭を把握する。1930 年代前後から現在までの社会学の歴史を、同時代史との関係という観点から整理する。フランクフルト学派と批判理論、タルコット・パーソンズ、西欧社会学の危機と再生、構造主義とその影響、社会理論とコミュニケーション論、社会秩序と日常生活、グローバル化と世界社会という順序で社会学史の流れを整理する。

BC103 社会調査法A

社会学の特徴は、社会に対する研究者の価値関心、社会を説明する理論、社会を把握する調査方法の三者が密接に関係している点にある。この講義では、社会学の古典的なモノグラフィをいくつか紹介しながら、そうした関係について理解を深めることを目的とする。社会学と社会調査の関係について、学説史的に概説した後、計量的社会調査と非計量的社会調査、フィールドワークの可能性と限界、調査者と被調査者の関係、個人の歴史と社会の歴史を重ね合わせること、価値関心に導かれた社会調査、政策形成に貢献する社会調査などについて概説する。

応用講義

BC201 社会調査法B

社会学的社会調査の方法のうち、調査票を用い、サンプリングを施した計量的社会調査の方法と実施上の諸問題について解説する。実際の調査の構想、設計、実施、分析までの一連のプロセスにそって学んでいくことを通して、受講者が卒論などで自ら計量的社会調査を実施できるようになることをめざす。調査の構想と調査票の作成、サンプリングと調査実施の手順、調査実施の諸方法と諸問題、コーディングとデータクリーニング、集計結果の解析の基礎などを概説したあと、計量的社会調査の代表的先行研究を読むことで総括を行う。

BC202 社会調査法C

この講義の目標は、質的調査法の基本的理解を得ることである。調査法は、問いを立てて解答を導き出すという研究行為の総体の中に位置づけて見る必要があるため、問題設定と調査法の間を整理して質的調査法を位置づけたうえで、研究課題とデータの性質の関係、必要とするデータと収集法の関係、分析目的と分析方法の関係、社会的行為としての調査の社会的意義(倫理的側面)という順に概説する。その際、質的調査法の具体的な使用法を検討できるよう研究事例を示し、各自の問題意識に照らしてどんな研究が可能かを構想する。

BC203 比較社会学A

深刻な経済格差や社会的差別、環境問題など、グローバル化する現代世界を特徴付けるいくつかの問題現象を考察することから、比較社会学の視点を総論的に概説する、まず第一に、途上国、先進国などいくつかの社会をとりあげ、その実態を比較考察することにより比較の眼を養う。その上で第二に、開発理論、社会構造論、システム論、歴史的視点など、比較社会に関する諸理論を概観する。そして第三に、世界社会とそのなかでの世界の諸地域について、貧困、開発、環境、平和、ジェンダーなどの問題を考察する。

BC204 比較社会学B

アジア諸地域、アフリカ、中南米などの途上国、アメリカやヨーロッパなどの先進諸国から具体的な地域をとりあげ、その地域における深刻な経済格差や社会的差別、環境問題など、グローバル化する現代世界を特徴付けるいくつかの問題現象を考察することから、比較社会学の視点を各論的に概説する。先進国

と開発途上国の格差、さらには先進諸国内での格差、地球的規模での環境問題、文化摩擦や民族紛争の問題、冷戦構造の崩壊と資本主義の世界化の問題等々具体的な問題を探り上げ、比較社会の方法を用いて、特定地域について考察を行う。

BC205 国際社会学A

現代社会の社会変動により、先進国と開発途上国の格差、先進諸国内での格差、地球的規模での環境問題、文化摩擦や民族紛争の問題、冷戦構造の崩壊と資本主義の世界化の問題などが生じている。こうした問題状況をとらえる視点として、国民国家を超えた社会のありようを考察する国際社会学について総論的に説明する。国民社会、国民国家、ナショナリズム、世界システム、サブ・ナショナルな単位と関わるエスニシティ、地域主義などの論点をめぐり、自明性としての国民国家の相対化、新しい分析ユニットの登場について論じる。

BC206 国際社会学B

現代社会の重要な徴候としてのグローバル化について、様々な領域で進行する世界的な統合と再編成を検討しながら考えて行く。労働力、企業組織、コミュニケーション、消費、都市などのグローバル化について例解しながら、国民社会、国民国家、ナショナリズム、世界システム、サブ・ナショナルな単位と関わるエスニシティ、地域主義などの現況を考察する。そして先進国と開発途上国の格差、さらには先進諸国内での格差、地球的規模での環境問題、文化摩擦や民族紛争の問題、冷戦構造の崩壊と資本主義の世界化の問題等々を検討してゆく。

BC207 労働社会学Ⅰ

構造転換の過程にある現代社会の企業と労働について社会学的視点から考察を行う。「労働社会学」では、とりわけ、人事労務管理と労使関係について詳しく検討する。まずイントロダクションとして労働社会学の概要について説明する。その上で、労働社会学の理論と方法を用いて、次のような順序で講義をすすめてゆく。企業社会の構造と動態、現代企業の人事労務管理、4 現代企業の労使関係、現代社会における企業と労働の諸問題。最後に「労働社会学」で扱う論点との関連などにも触れながら、総括を行う。

BC208 労働社会学Ⅱ

構造転換の過程にある現代社会の企業と労働について考察する。「労働社会学」では、特に、職場における人間関係開発とキャリア開発について検討する。「労働社会学」の内容を要約的に概括した上で、次のような順序で講義は進行する。1 企業と人間関係、2 職場の人間関係開発、3 職場の人間関係開発の援助、4 職業能力開発とキャリア設計、5 職業能力開発とキャリア設計の援助、6 産業における精神保健、7 労働生活の質と、労働の人間化。

BC209 経営社会学A

現代の企業経営について、社会学的視点から考えていくことによって、産業や経営への理解を深めることを目標とする。イントロダクションとして経営社会学の概要について説明したあと、まず株式会社について

社会学的考察することについて解説する。その上で経営社会学の理論と方法をもちいて、企業集団の諸形態、企業経営の組織構造、経営管理と経営者、経営戦略と経営計画、企業と社会などについて概説してゆく。最後に「経営社会学B」で扱う論点との関連などにも触れながら、総括を行う。

BC210 経営社会学B

現代の企業経営について、社会学的視点から考えていくことによって、産業や経営への理解を深めることを目標とする。「経営社会学A」の内容を要約的に概括した上で、イントロダクションとして経営社会学の概要について説明する。その上で、経営社会学の理論と方法をもちいて、次のような順序で講義をすすめてゆく。生産技術と生産管理、人的資源の管理と開発、市場とマーケティング、資本の調達と運用、現代日本企業の特徴と動向、企業と社会・再論。

BC211 家族社会学Ⅰ

変動期の現代家族をめぐる諸テーマについて、学際的アプローチを手がかりに、今日の多様な「家族」のありかたを見つめ、グローバル化時代の個人と家族のネットワークについて、柔軟な知的想像力を培っていく。まず、身近な家族の「当たり前」を相対化する。そして現代日本の家族をめぐる問題を法・制度や企業社会との関連から学ぶ。さらに、社会学的視点や女性学の視点から、集団としての家族の変化や個人のライフコースと家族、ネットワークとしての家族について再考し、近代家族からポスト近代家族への道筋を探っていく。

BC212 家族社会学Ⅱ

少子・高齢化時代の家族や地域、女性の社会進出のリアリティを見すえ、男女の仕事と家族生活の両立問題を軸に、現代家族とジェンダーをめぐる課題を多面的に考察していく。多様化する女性や家族のあり方に対応した社会政策やジェンダー秩序改革の方向についても、国際比較研究等に学びながら、検討する。まずジェンダー・アプローチの意義を確認する。そして、女性の社会進出と家族、仕事と家族生活両立の課題、少子・高齢化と家族をめぐる問題について検討する。さらに、DV、児童虐待などの家族関係をめぐる病理克服の道をさぐる。

BC213 都市社会学

変わりゆく都市社会と都市環境。少子化時代の家族や地域のリアリティをふまえ、子育て問題を切り口として、都市社会学とジェンダーの社会学の視点から、多様な市民にとってやさしい都市環境づくりについて考えていく。まず、「少子化とはどんな問題なのか」について共通に理解した上で、都市環境における子育て困難の中身を、社会学的都市調査の結果から学んでいく。そして、都市環境における子育ての困難を克服するための政策や、市民活動の意義についての展望を拓いていきたい。

BC214 地域社会学

現代日本の地域社会(都市と村落の両方を含む)における社会現象と、その社会的背景を分析するのに、どのような社会学的視点が有効であるのかを考察する。グローバル社会の結節点としての地域をめぐる諸問題、地域の生活世界と危機管理など、現代の変わりゆく地域の諸相について学んでいく。「地域とは何

か」という問いに始まり、地域をめぐる諸問題 情報、コミュニティ形成、生活文化、伝統と現代、地域計画とまちづくり、地域の安全性など地域社会学のテーマを学ぶ。

BC215 福祉社会学A

社会問題や生活問題が生起する社会経済的背景やこれらへの社会的対応である社会保障や社会福祉政策を社会的に論じる。この授業では、これらをジェンダーアプローチによってみていく。総論的な議論として、福祉社会学の成立、福祉社会学の展開、福祉社会学とジェンダーという問題を講述する。その上で、各論的な問題、すなわち社会福祉政策と制度、家族・労働、児童福祉、母子・父子福祉、高齢者福祉、障害者(児)福祉、社会福祉のヒューマン・パワー、セクシュアリティ・人権などについて講述し、最後に福祉社会学の課題を提示する。

BC216 福祉社会学B

急速に進む日本の少子高齢社会について理解し、今後の課題について論ずる。個人レベルの加齢が家族、企業などの集団に与える影響、地域社会や社会政策の課題などについて学ぶ。まず福祉社会学の概要を説明したあとで、少子化と高齢化、エイジングの社会学、職業からの引退と社会参加、高齢者と経済生活、高齢者と家族、高齢者の社会的地位、高齢者を支える資源、高齢者の QOL を求めて、高齢者のライフコース、世代間交流、統合ケアなどの問題を考察してゆく。

BC217 福祉社会学C

社会福祉の概念、福祉の発展の歴史、欧米オセアニアをはじめとする世界各国における福祉の現状と福祉社会の課題、グローバルな視点から捉える福祉、などの知識を広げ、理解を深める。国際比較の視点にたつて、福祉社会の概念、福祉の変遷などについて概観する総論的な講述をまず行う。その上で、世界各国の福祉社会の現状について、日本の都市や農村の現況とも比較しながら事例を紹介する。その上で、現代社会における福祉社会の課題は何か、福祉社会の目指すものは何か、福祉社会と市民参加の問題はどうあるべきかなどを考察してゆく。

BC218 医療社会学A

現代社会においては、人間が生まれ、成長し、そのなかで病気にかかったり、障害をもったり、妊娠・出産、不妊、避妊や中絶、あるいは性転換などを経験したり、やがて年をとったり、といったことが、医療との関わりで問題にされるに至っている。そして、well-being としての福祉実現のための医療の概念や制度をめぐる議論がなされてきている。「医療社会学A」は、こうした議論を整理しつつ、具体的な問題を設定し、病気になること、障がいを持つこと、医療を受けることなどの意味について総論的に考察する。

BC219 医療社会学B

現代社会においては、人間が生まれ、成長し、そのなかで病気にかかったり、障害をもったり、妊娠・出産、不妊、避妊や中絶、あるいは性転換などを経験したり、やがて年をとったり、といったことが、医療との関わりで問題にされている。そして、well-being としての福祉実現のための医療の概念や制度化をめぐる議論がなされてきている。「医療社会学B」は、医療化をめぐる諸問題のなかから具体的な問題を設定しつつ、

病気になること、障がいを持つこと、医療を受けることなどの現況について、事例を交えつつ、各論的に考察を行う。

BC220 文化社会学A

人と人との関わり合いとしての社会にまとまり、つながり、おさまりを与える規範としての文化という社会的な文化の定義を基本にしながらも、そうした文化の定義を生み出す社会観、そうした社会観が生み出すさまざまな幸福／不幸の現状を検討することなどを通じ、現代社会の文化について批判的に考察する。とりわけ、現代社会のさまざまなディバイドに着目しつつ、マイナリティの文化について現況を説明し、バリアフリーな社会のあり方について総論的に考察する。

BC221 文化社会学B

現代社会の社会問題から事例をいくつか採り上げ、そこで生じている幸福／不幸の現状を社会的に考察する。とりわけ、現代社会のさまざまなディバイドに着目しつつ、マイナリティの文化について現況を説明し、バリアフリーな社会のあり方について各論的に考察する。そうした事例的な考察を踏まえながら、現代文化はどのような問題を抱えているか、それをとらえる視点はどのようなものであるべきか、といったことについて具体的に考察をくわえてゆく。

BC222 社会意識論

戦後日本社会の歴史を基本文脈とし、社会心理・文化・メディアをめぐるトピック(いじめ、友人関係、少年犯罪、ニート、SNS 等々と関わることから)について事例的、理論的に考察する。そこから日本社会における価値意識(幸福感、イデオロギーなど)について考えてゆく。主題は次の通り。「よい子」であること、「世界で一つだけの花」をみつけること、「やりたいことをやる」こと、「自分を見つける」こと、「他人のためになる」こと、「頑張る」こと、「一つのこと」をやり続けること、「マニュアルどおり」にすること等々。

BC223 政治社会学

一見すると日常生活とほど遠い「政治」が、私達の日常生活と不可分なことを検討する。それによって、「政治」と呼ばれるものが、実際には、政治家の行為や行政に限られるのではなく、多面的な要素を持っていることを考えていく。まず政治社会学とは何か？ 政治学と政治社会学の違いについて総論的な講述を行った後、各論的な議論を行う。官僚制度と行政、社会運動と政治、国家と日常生活、監獄の誕生、性と権力、新しい政治参加などのトピックを考察し、その議論をふまえた上で、日本社会における新しい政治参加のあり方について考える。

BC224 現代社会論A

現代社会は、ジェンダーの問題、少子高齢社会、非行や犯罪の問題、環境問題、資源エネルギー問題、障害者の問題、雇用問題など、さまざまな社会問題を抱えている。「現代社会論 A」は、さまざまな社会問題のなかから具体的な問題を取りあげ、それを題材にしつつも、このような社会問題を引き起こしている社会構造、社会変動はどのようなものか、それをとらえる視点はどのように設定できるのかといった問題について、総論的な考察を行うものである。

BC225 現代社会論B

現代の日本社会は、ジェンダーの問題、少子高齢社会、非行や犯罪の問題、環境問題、資源エネルギー問題、障害者の問題、雇用問題など、さまざまな社会問題を抱えている。「現代社会論B」は、こうした日本社会の問題に焦点を当て、具体的な社会問題をとりあげて検討し、社会問題の実態はどのようになっているか、問題解決のための理念や方策(政策的な対応、社会運動の取り組みなど)はどのようなものであるべきかといった論点について、各論的な考察を行うものである。

BC226 現代社会論C

現代社会は、ジェンダーの問題、少子高齢社会、非行や犯罪の問題、環境問題、資源エネルギー問題、障害者の問題、雇用問題など、さまざまな社会問題を抱えている。「現代社会論C」は、さまざまな社会問題のなかから具体的な問題をとりあげ、日本社会の問題と諸外国の社会の問題と比較しながら各論的な考察を行うものである。問題の現状を認識するとともに、世界各国の社会における問題の構造、対応の相違などを比較しながら、問題解決の方途を模索してゆく。

基盤演習

BC301 基礎演習(社会学)

社会学という学問の基礎的な概念枠組みについて、入門レベルの学習を進める。社会学の諸領域と関わる社会問題と、社会学のさまざまな考え方、方法などを照らし合わせることで、社会学的視点について入門的な演習を行う。同時に、自主的な学習を前提とした報告や討論による演習形式での講義を通じて、大学で社会学を学んでいくために必要な学習の技法を習得する。たとえば、研究発表の仕方、質疑・応答や討論の行い方、文献や資料などの集め方、調べ方などである。

BC302 2年次演習(社会学)

社会学的なものの見方、考え方について、自主的な発表、討論などによる演習形式で学習する。現代社会の具体的な諸現象、社会問題を題材とし、一方で家族、都市・地域、学校・教育、経営・労働、福祉、社会意識・文化・メディア、国際社会という社会学の各論的な広がり学ぶ。他方で、社会学的な発想法、社会学の基礎概念および理論枠組、方法論など社会学の総論的内容を学ぶ。同時に、効果的な口頭発表(プレゼンテーション)のやり方、学術的な文章の書き方、討論の進め方(聴きかた、話しかた、とりまとめかた)について訓練を行う。

発展演習

BC401 社会調査実習

社会学、経済学、国際関係という各々の専攻領域において社会調査を行うことの意味と何かという理念的な側面、その専攻領域で採用される調査方法の概要、量的調査法、質的調査法の用い方(調査票の設計、サンプリング、調査の実施、コード化と集計、結果の解釈、報告書の作成など)などについて学ぶ。自ら質問紙調査、聞き取り調査などを行うことを学ぶことで、社会調査の方法を卒業論文研究にもちいるための準備とする。

BC402 3年次演習(社会学)

家族、都市・地域、学校・教育、経営・労働、福祉、社会意識・文化・メディア、国際社会という社会学の各論的な領域、理論社会学、社会学史といった総論的な領域から、自らの専攻領域を決め、その領域における4年次における卒業論文研究に向けて、専攻領域の概要、そこでの基本的な研究主題、研究方法などについて学ぶ。基礎知識の習得にくわえて、専攻領域で卒業研究をすることの意味という理念的側面、社会調査法、文献研究法など方法的側面、技術的側面の双方について学びながら、卒業論文研究の基礎作りを行う。

BC403 4年次演習(社会学)

4年次前期に確定した卒業論文の題目に基づいて、学生自身が主体的に卒業論文を完成させることができるように指導する。本演習では、まず、各自の中間発表を行うことで、問題設定、目次立て、分析方法、行論などに関する問題点を批判的に検討しあう。この演習形式の検討、レビューを踏まえた上で、さらに発表や討論を重ねることにより、卒業論文の内容の進化を計る。あわせて、卒業論文執筆のための技法を具体的に指導してゆく。